

## 第4回 幼小の一層の円滑な接続を図るための教育課程の研究・開発委員会 会議要旨

- 1 日時 平成30年8月29日（水）15:00～17:00
- 2 会場 東京都庁第一本庁舎16階特別会議室S4
- 3 出席者 無藤委員（委員長）、坂野委員、山森委員、瀬下委員、小堀委員  
宇田委員（副委員長）、栗原委員 【欠席】 児玉委員

### 4 議事概要

#### (1) 報告

- ・ 第3回 幼小の一層の円滑な接続を図るための教育課程の研究・開発委員会における確認事項について
- ・ 第3回 教育課程の研究・開発モデル地区委員会における協議内容について

#### (2) 議事

##### ▽ 実態調査の概要について

- 研究・開発していく教育課程の例を示すに当たって、幼児・児童の活動や学習・生活の状況、教員・保育者の指導状況等を把握する必要がある。
- 幼児・児童の実態調査については、対象幼児・児童の個々の実態を把握する方法と、学級全体のおよその実態を把握する方法がある。教育課程を研究・開発するに当たって有用な方法を、事務局において十分に検討の上、決定すること。
- 教員が4月の児童の状況を振り返って回答するのは難しい。現在の状況と4月の状況を比較して回答するなどの工夫をするとよい。
- 回答する際の根拠（例えば週案の記録や製作物など）についても尋ねるとよい。
- 予算に応じて調査の規模や設問数等を検討するとともに、教員・保育者への負担についても考慮する必要がある。

実態調査の実施に当たっては、回答する教員・保育者への負担等を考慮する必要がある。また、次年度に実施予定のモデル地区における実態調査の時期や内容も考慮するなど、事務局において更なる検討を行い、調査対象、規模、内容等について決定する。

##### ▽ 中間報告について

- 教育課程の基本的な枠組に関する文中の「実態に応じていく必要がある」という箇所については、何をするかを具体的に記載する必要がある。
- 指導内容に関する文章の中にある「スパイラル的に育む」を「スパイラルに育む」へ修正する。
- 指導内容・時期・体制のイメージ図における指導内容は、成長段階ごとに区切られており、固定化しているように見える。区切りを外し、帯のように記載した方がよい。
- 教材・教具の活用については、「指導内容及び指導時期に応じた教材・教具の活用」と修正する。
- 実態調査例の中の「学力の分析」は、効果検証の指標作成に向けた取組例として示す。

中間報告については、本委員会の協議内容を受けて事務局が修正する。中間報告の最終的な確認は、委員長決裁とする。作成した中間報告は、10月の東京都教育委員会定例会において報告する。